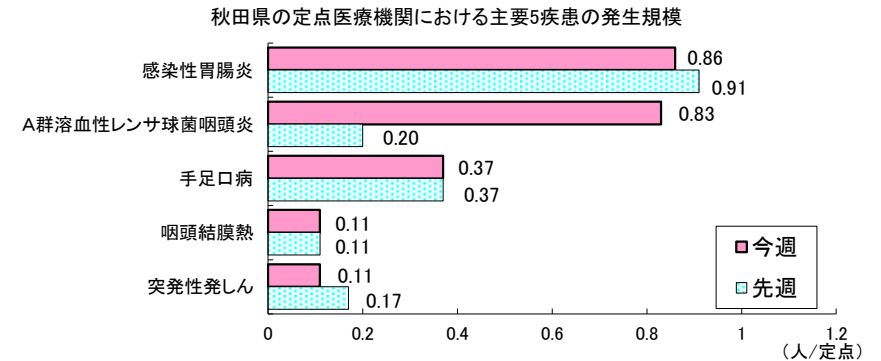




【第32週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

1. 感染性胃腸炎は、県全体で5%減少しています。保健所別では、北秋田、能代、秋田中央、由利本荘で増加、大館、湯沢で同規模、秋田市、大仙、横手で減少しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で4.2倍に増加しています。保健所別では、秋田市、秋田中央、大仙で増加、北秋田、湯沢で減少しています。
3. 手足口病は、県全体で同規模です。保健所別では、秋田市、横手、湯沢で増加、大館、大仙で減少しています。



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減			
RSウイルス感染症																														
インフルエンザ																														
咽頭結膜熱	0.11	0.11		0.29		↓									0.25	0.50	↑			0.25		↓				0.50	↑			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.20	0.83	↑		2.57	↑			0.50		↓				0.75	1.50	↑			0.50	1.25	↑			0.25		↓			
感染性胃腸炎	0.91	0.86	↓	2.43	1.29	↓	0.75	0.75			0.50	↑	0.33	1.67	↑	1.25	2.25	↑		0.25	↑	0.75		↓	0.33		↓			
水痘	0.17	0.06	↓	0.29		↓	0.25	0.50	↑																	0.75	↓			
手足口病	0.37	0.37			0.29	↑	1.50		↓											1.75	0.25	↓		2.33	↑		0.75	↑		
伝染性紅斑	0.06	0.03	↓	0.14		↓									0.25	0.25														
突発性発しん	0.17	0.11	↓	0.29	0.29		0.50	0.25	↓										0.25	↑	0.25		↓			0.25	↓			
ヘルパンギーナ	0.06	0.06							0.50		↓				0.25	0.25						0.25	↑							
流行性耳下腺炎	0.03	0.03							0.50		↓								0.25	↑										
川崎病		0.03	↑		0.14	↑																								
急性出血性結膜炎									*	*		*	*		*	*									*	*				
流行性角結膜炎									*	*		*	*		*	*									*	*				
細菌性髄膜炎															*	*														
無菌性髄膜炎															*	*														
マイコプラズマ肺炎		0.13	↑							1.00	↑				*	*														
クラミジア肺炎(オウム病を除く)															*	*														
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)															*	*														

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↑」は増加を、「↓」は減少していることを示します。  
「\*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から3人、報告されました。  
・指定感染症の新型コロナウイルス感染症が秋田市保健所管内から15人、能代保健所管内から2人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	1週-31週		32週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	9968	54	3
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ	1		
	細菌性赤痢	55		
	腸管出血性大腸菌感染症	1240	20	
	腸チフス	19		
	パラチフス	7		
四類	E型肝炎	275	2	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	87		
	エキノコックス症	10		
	黄熱			
	オウム病	4		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	7		
	キャサナル森林病			
	Q熱			
	狂犬病	1		
	コクシジオイデス症	3		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症	1		
	重症熱性血小板減少症候群	44		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
	ダニ媒介脳炎			
	炭疽			

類型	疾患名	1週-31週		32週	
		全国	秋田	秋田	
四類	チクングニア熱	3			
	つつが虫病	107	8		
	デング熱	41			
	東部ウマ脳炎				
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)				
	ニパウイルス感染症				
	日本紅斑熱	143			
	日本脳炎	1			
	ハンタウイルス肺症候群				
	Bウイルス病				
	鼻疽				
	ブルセラ症	1			
	ベネズエラウマ脳炎				
	ヘンドラウイルス感染症				
	発しんチフス				
	ボツリヌス症	3			
	マラリア	14			
	野兎病				
	ライム病	16			
	リッサウイルス感染症				
	リフトバレー熱				
	類鼻疽				
	レジオネラ症	1071	7		
	レプトスピラ症	1			
	ロッキー山紅斑熱				
	五類	アメーバ赤痢	358		
		ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	148	2	
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		941	7		
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)		20			
急性脳炎		352	4		
クリプトスポリジウム症		3			
クロイツフェルト・ヤコブ病		87	1		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		462	3		
後天性免疫不全症候群		592	1		
ジアルジア症		15			
侵襲性インフルエンザ菌感染症		182			
侵襲性髄膜炎菌感染症		11			
侵襲性肺炎球菌感染症		1086	9		
水痘(入院例に限る)		216	7		
先天性風しん症候群		1			
梅毒		3323	39		
播種性クリプトコックス症		85	1		
破傷風		59	1		
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症					
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		73			
百日咳	2614	9			
風しん	85				
麻しん	12				
薬剤耐性アシネトバクター感染症	5				
指定	新型コロナウイルス感染症	18	17		

トピック

<夏季のつつが虫病について>

8～9月は全国的につつが虫の患者発生は少なくなります。ただし、秋田県を含む一部地域では、夏季もつつが虫病が発生するため、注意が必要です。

■夏季のつつが虫の特徴

主に、幼虫活動期が7月～9月のアカツツガムシの媒介により感染します(図1)。アカツツガムシは、本県では大仙市以南の雄物川とその支流の河川敷に生息しています。広い河川敷の中でも、特に水際に近い所、あるいは大雨後に水没するような川岸の砂地に生息しています(図2)。近年発生した患者は、全て釣りなど水際のレジャーの後に発病しています。

■症状

アカツツガムシに吸着されると、その部分に衣服などが擦れた際、**鋭い痛み**を感じる事が特徴です。吸着したアカツツガムシが病原体を持っていた場合には、吸着してから5～10日後に、体のたるさや頭痛、食欲不振、関節痛などを伴った高熱をもって発病します。その数日後には胸や背中、腹などに発疹が現れ、体のどこかにアカツツガムシに吸着された跡である1cmほどのかさぶたが見つかります。

発病早期に受診し、適切な治療を受ければ通院治療で完治しますが、治療が遅れると重症化して数週間～数ヶ月間の入院を要し、命にかかわる場合もあります。

■予防

ツツガムシを身体に寄せ付けことが重要です。また、ツツガムシが身体に取り付いても、病原体に感染するまでには6～10時間ほどかかります。そのため、次のような対応が有効です。

- ① 釣りなどレジャーの際は、裸足での活動避け、地面に直に座らない。
- ② 河川敷から帰ったら、早めに着替えて衣類はすぐに洗濯する。すぐに洗濯できない時は、衣類をビニール袋に密閉しておく。
- ③ 帰宅後は速やかに入浴し、身体のすみずみまで念入りに洗い流す。

また、①～③に加えて、効能書きに「ツツガムシ」と記載のある虫除けスプレーを使うことも有効です。それでも発熱などの症状が現れた場合は、すぐに受診しましょう。その際、河川敷での活動があったことを医師に伝えることが重要です。

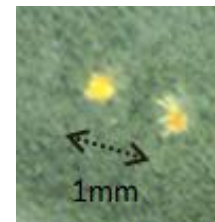


図1 アカツツガムシ幼虫(2匹)体長約0.2mm



図2 アカツツガムシの生息する河川敷矢印より川に近い水際が生息域



**【注意報・警報の発生状況】**

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
注意報・警報はありません。		

■ 注意報・警報の定義

**【注意報・警報の定義】**

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		